

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:16 (57%) ②:10 (36%) ③:1 (4%) ④:0 (0%) 未回答:1 (4%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:18 (64%) ②:7 (25%) ③:3 (11%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:13 (46%) ②:13 (46%) ③:2 (7%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:22 (79%) ②:5 (18%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (4%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:8 (29%) ②:18 (64%) ③:2 (7%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:23 (82%) ②:5 (18%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:19 (68%) ②:9 (32%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:6 (21%) ②:22 (79%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:14 (50%) ②:12 (43%) ③:2 (7%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:12 (43%) ②:14 (50%) ③:2 (7%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

B (問 14~18) : FD 活動についてお尋ねします。

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。(複数回答可)

①他教員の授業参観： 6 (21%)

②学内外の FD 講演会等への参加： 7 (25%)

③他大学の FD 活動の視察： 6 (21%)

④その他： 3 (11%)

・・・「他教員との話し合い」、「学会での発表を聞いた。他大学からの FD に関する資料を読んだ。」、
「とくになし」

未回答： 8 (29%)

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。(複数回答可)

①他教員の授業参観： 19 (68%)

②学内外の FD 講演会等への参加： 15 (54%)

③他大学の FD 活動の視察： 10 (36%)

④その他： 1 (4%)・・・「他教員との話し合い」

未回答： 7 (25%)

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：11 クラス（順不同）

[1] 前期にたまたま同じ教科書を使った学生が多くやりやすかった。

[2] 板書を丁寧に心がけた。

[3] 前期初めて担当した検定ドイツ語Ⅱは受講生 3 名、今期は当初の受講生 36 名と大きく違った。学生のレベルと人数が授業開始までに分からず苦労した。今期の学生は 16 名ほど来なくなったのも予定外だった。

[4] 授業目標に掲げた「検定試験合格」に必要な能力は身につけさせることができなかった。学習目標と学習内容の見直しが必要と感じる。

[5] 少人数なので一人一人に合わせた授業が出来た。ただ、授業目標に掲げた検定試験合格に必要な能力を身につけさせることは出来なかった。

[6] 中国人教員が同時限に同一名称のクラスを担当していたので、教員の特性（ネイティブ（会話重視）か日本人（文法重視）か）に応じて、初回授業時に学生にクラスを選択させるようにした。特に、前期の教員の特性（担当が中国人教員か日本人教員か）によって、前期とは逆の教員を選択し、多様な学習機会を与えるよう心がけた。

[7] 学生たちのレベルに差がみられることから、説明は一定程度で一旦終了し、その後、その日の確認テストまでの間に個別質問を受け付けるようにした。机間巡視も行い、理解が不足していそうな学生には個別に声をかけるようにした。

・・・2 クラス

[8] 学生に文章を理解させると同時に会話も重視し授業を行いました。

[9] 会話を重視し、授業を行いました。

[10] 留学生による PPT を用いた発表や、授業内での交流などに強い関心や興味を持つ学生が多かったことから、こうした時間に授業時間をやや多めに割いた

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 16 クラス（順不同）

[1] ただ単にドイツ語の文法を教えるのではなく、感覚的にも身につくよう教えることも心がけそれはある程度成功したが、進度はちょっと遅れ気味になったのが残念だ。

[2] 学生のレベルの把握を一度謝ってしまい、あとから調整せざるを得なかった。レベルが高すぎる時ちんと言ってくれた学生が何人かいて助かった。この科目は名称が変わるそうだがどんなレベルの学生が来るのか分からないのでシラバス作りは難しい。

[3] 前期初修外国語フランス語 A から、7 割以上の学生がこの授業を履修し、継続的な学習が実現できて良かった。

[4] 前期初修外国語フランス語 T から、7 割以上の学生がこの授業を履修し、継続的な学習が実現できて良かった。一方、後期から言語を変えて履修を望む学生を受け入れたが、やはり学習の進捗度が異なるため困難を伴った。

[5] 1 年次に年間選択必修科目としてフランス語を学んできた学生ばかりであったので、簡単なフランス語購読ができたことは大変良かった。

[6] フランス語検定の受験が目的であったため、後期授業開始から試験日まで 1 カ月半しかなく、試験対策用に要点のみ説明する授業となった。受験者が全員合格したので目的は達成されたが、授業内容に関しては今後改善が必要だと感じた。

[7] 教科書以外の内容も取り入れるべきだった。

[8] 人数が 40 名程であるので、なるべく一人一人をみて授業しようと試みたが、難しかった。中国語を使えるようになって欲しいと考え、できるだけテキストを声に出し、場合によっては暗唱させるなどの工夫をした。また、意欲的な学生には、カードを渡し、それを点数化するなど学生が積極的に授業に参加できるように工夫した。もっと一人一人に踏み込んできめ細かな指導ができるという感触を得たので、来年度実践していきたい。

[9] 授業をもっと工夫して、学生が自主的に学習するようになることを目指します。・・・2 クラス

[10] 毎回、書き込みができるプリントを用意し、学生が漫然と説明を聞くことのないよう、自身で活動ができるように心がけた。適宜、机間巡視も行い、プリントへの書き込みが不十分な学生には、集中して取り組むよう、声かけなどを心がけた。

・・・2 クラス

[11] 設問 16 に示したように、留学生との文化交流の部分を重視したが、そのために、教科書内の文法説明や語彙習得の時間がどうしても少なくなってしまった。関心喚起と確実な習得に向けた作業との両立は非常に困難であると感じる。

[12] 設問 16 で回答したように、学生には教員の特性に応じてクラスを選択させたので、自身のクラスでは、文法学習を重視したい学生が多く、会話練習よりも文法説明に多くの時間を割くことになった。発音練習やアクティビティの時間が短かったことは反省点である。ただ、そうしたことを補うためにも、DVD を見せたりして、少しでも文化に触れる時間が作れるように心がけた。

[13] 留学生と共に様々な活動をすることによって、文化理解を促進するという目標があったが、よい効果を生み出したと評価している。ただ、どうしてもツールとして用いる中国語のレベルが低いため、留学生の日本語に頼る場面が多かった。もう少し中国語を用いて深く調査したり話し合ったりする場面を作りたかった。また、時間割の関係上農学部がほとんどだったのも残念だった。留学生の確保が難しいことがわかり、来年度開講できないのが残念でならない。

[14] 検定受験を前提とした授業としてシラバスを書いたが、実際は単位取得のみが目的で検定は受験しなかった学生がいた。また、自律的学習を促そうと、予算を使って web 学習できるようにし、反転学習を数回試みたが、ログイン自体に時間がかかったり、うまくできない学生がいたりしてなかなかうまく機能しなかった。どうしても学生にばらつきが有り、目標全てを達成したとはいえないのが残念であるが、野心的な取り組みはできたと評価している。

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C (問 19~21) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 25 (89%) ②いいえ： 3 (11%) 未回答： 0 (0%)

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する： 19 (68%)
 - ②読んで理解する： 18 (64%)
 - ③自分の考えをまとめて話す： 5 (18%)
 - ④自分の考えを文章にまとめる： 2 (7%)
 - ⑤討論する： 2 (7%)
 - ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 9 (32%)
 - ⑦その他： 2 (7%)・・・「会話」、「新しい項目の学習が終わったらより身近な話題で自分のことがいえるようペア練習をしている。自分についての質問に答える口頭テストを 2 回実施・評価の一部にしている。」
- 未回答： 4 (14%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 13 クラス（順不同）

- [1] ドイツ語に限らず全ての言語はコミュニケーションの手段であるので、ドイツ語の授業では当然コミュニケーション力が重視される。
- [2] 独検の聞き取り試験問題を使って聞き取り指導をした。
- [3] グループ毎に動画を作成する課題を通じて、グループ内のコミュニケーション力を養い、さらにその動画を他クラスにも見せることで、クラスの枠組みを越えたコミュニケーション力を養うことができた。また動画を動画サイトで公開し世界に向けて発信することでグローバルなコミュニケーションを目指すことができた。・・・3 クラス
- [4] 毎回の授業で会話のペア練習を行った。外国人学生とグループになってコミュニケーションをとる場を設けた。
- [5] 少数での学習だったので、TA 学生(留学生)2 人とともに会話中心の授業が出来た。
- [6] 毎回の授業で外国人学生とのコミュニケーションをとることができるようにした。
- [7] 中国語で自己紹介ができるよう、学生の氏名を中国語で示し、練習を取り入れるようにした。・・・2 クラス
- [8] 後半からは、授業中に指名して、学生からの発言を促すように心がけた。
- [9] 2 クラス合同で詩の暗唱大会を開いた。皆緊張したようだがやり遂げられた。また、相互評価をして、皆に評価された学生を発表し、やりがいを持てるように工夫した。
- [10] 留学生による発表に、日本人学生は、口頭で質問したり、あるいは、コメントペーパーを活用して、意見の交換を行うよう心がけた。また、漢詩の暗唱大会を開催し、学生相互での評価や、留学生にも審査員になってもらって、ピアレビューの体験もした。

D (問 22～25) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 5 (18%) ②いいえ： 23 (82%) 未回答： 0 (0%)

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおおよその回数を選んでください。

①1～5回： 5 (18%) ②6～10回： 0 (0%) ③11～15回： 0 (0%)
未回答： 23 (82%)

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 5 (18%) ②政治・経済・産業： 3 (11%) ③自然環境・フィールド体験： 3 (11%)
④その他： 0 (0%) 未回答： 23 (82%)

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 3 クラス

[1] フランス語の歌を歌いながら、フランス語圏向けに宮崎大学と宮崎県をアピールする動画を作り、動画サイト YouTube において公開した。・・・3 クラス